

あ と が き

★ 「13 年間の浅見氏（浅見哲夫さん）の努力に敬意を表すとともに今後も、国内の核データ関係者間の情報交換のため本誌を充実させていかなければ」（核データニュース 31 号あとがき）と書いたのは、編集長を引き継いだ中川庸雄さんである。それから 22 年、浅見氏を中川氏と言い換えれば、そのまま中川さんへの謝意とも、また少し大げさだが新編集メンバーの“決意”ともなるであろう。

★ 定期刊行物の編集・出版は、怠けることが出来ない仕事である。一冊作りあげても時間は止まらない。ほっとした気分にはなれなかったろう。しかも核データの研究という本来の仕事がある。よくやって頂いた。中川さんの“人の善いこと”を当てにして任せっきりであったことを改めて申し訳なかったと思う。

★ “中川さんは余人・・・”と言いたいところなのだが、それでは新編集長中村詔司さんの顔を潰すようで失礼になる。われわれとして出来ることは、中村さんが今後楽しんで仕事を引き継いで頂けるよう、読んで面白い記事、活動の肥やしになるような記事を寄稿することであろう。またそうした記事が、われわれ核データファミリーや読者の間でのショップトークの話題になることを期待したい。

★ ところで本号の冒頭記事は、大澤孝明さんの断裂中性子（SCN）。難しいことはよく分からないが、全体のストーリーはなかなか面白かった。実は上述の 31 号にも大澤さんが書いた「核分裂における中性子放出の物理」という記事がある。水戸で開かれた国際核データ会議のサテライト、IAEA 専門家会議の報告である。非平衡状態での放出中性子でありながら、この SCN、励起エネルギーが高くて低くても現れ、理論に混乱を起こし、一方で新しい状況を生み出すらしい。トリックスターと言ったのは大澤さんの命名か？ 断裂という語はゴロは悪く、もっとスマートな訳語をお願いしたいが。はさみでチョキンと切ったときに勢いよく飛び出て行く小さな切れ端のようなものなので **scission neutron** と呼ばれるのであろう。22 年前の記事では放出割合が 5% 以下に追い込まれたとあったが、核データニュース 94 号の大澤さんの報告では、たかだか 3%、しかし 25% 説も、相変わらず顔を出している。トリックスターは断裂中性子か、それとも M 氏自身か、はて。

★ 今年の夏は、大相撲の賭博騒動が大いに世間を賑わした。核データニュースも大相撲にいささか関係があるといえば、“えっ”と目を剥く向きもあろうが、大それた話ではない。核データニュースの出す時期を東京で開かれる相撲の本場所に合わせた、というだ

けのこと。出版月を何時にするか、年 2 回だと学会の前か後にしようということで、すぐ決まる。年 3 回発行というのは理由が付けにくい。得てしてどちらにしても大勢に影響ない問題はなかなか決まらないものである。相撲の本場所の月にしようということであっさり決定した。今では発行は一月ずれて 2 月、6 月、10 月になっている。言いだしっぺは中島龍三さん、もうずいぶん昔の話である。

喜多尾 憲助

核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助（元放医研）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、
岩本 修（原子力機構）、中川庸雄（元原子力機構）、吉田 正（東京都市大学）、
渡辺幸信（九大）、山野直樹（福井大）、河野俊彦（LANL）、大塚直彦（IAEA）
中村詔司（委員長、原子力機構） [編集] 石橋貞子（原子力機構）